

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	ショック・循環不全	学年	2年生
講師名	境・井手	単位数	2 (30時間)
評価方法	終講試験(国家試験形式)		
使用機材	PC		
教科目標	生命維持に重要な「ショック・循環不全」に対し、分類とその判断方法を知る。		
	ショックに伴い起こる生体反応、特に体液の移動による補整を理解する。		
	血圧低下に対し交感神経およびカテコラミンの働きを理解する。		
講義内容	1	総論～定義と概念、種類と分類	
	2	総論～病態、ショックの判断	
	3	総論～各種ショックの判別、緊急度・重症度の判断、各種ショックの共通の観察と処置	
	4	循環血液量減少性ショック～発生機序、循環動態の変化、生体反応、体液変動	
	5	循環血液量減少性ショック～原因疾患、症候、現場活動、輸液	
	6	心原性ショック～原因疾患と発生機序、循環動態	
	7	心原性ショック～症候、現場活動	
	8	心外閉塞・拘束性ショック～原因疾患と発生機序	
	9	心外閉塞・拘束性ショック～症候	
	10	心外閉塞・拘束性ショック～現場活動、輸液	
	11	血液分布異常性ショック～種類と発生機序	
	12	血液分布異常性ショック～症候	
	13	外傷の病態生理 侵襲への反応 循環動態、炎症性メディエータ	
	14	外傷の病態生理 侵襲への反応 代償反応の破綻 急性期後の障害	
	15	外傷の病態生理 外傷に伴うショック 出血性ショック 非出血性ショック	
到達度の把握	通常の授業において学生の到達度、理解度の確認などをどのように行う予定ですか？		
	可能な範囲で具体的にご記入ください。		
	授業の中で、前回の復習等を口頭質問やグループワークで確認する。		
その他	事前もしくは授業の中で配布資料あり。		
	【担当教員の実務経験等】		
	救急隊員・救急救命士としての豊富な現場経験等をもとに、横断的な知識の必要なショックの理解について講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	顔面外傷	学年	3年生
講師名	工藤・井手	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験		
使用機材	PC 資料		
教科 目 標	顔面の解剖生理、外傷の特徴、救急処置法などを中心に学ぶ。		
講 義 内 容	1	顔面の解剖生理。	
	2	顔面損傷、吹き抜け骨折。	
	3	頸部損傷、軟部組織損傷。	
	4	口腔内・気道損傷。	
	5	症状と処置。	
	6	判断と処置、搬送。	
	7	気道異物。	
	8	消化管異物。	
	到 達 度 の 把 握	講義中の口頭質問、過去問題等による確認。	
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	救急隊員・救急救命士としての豊富な経験をもとに、基礎から現場対応までの実践的な講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	処置論Ⅱ	学年	3年生
講師名	工藤 朝生	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験		
使用機材	【毎回】 パソコン 資料配布		
教科 目 標	平成26年4月に救急救命処置に追加された「心肺停止前の静脈路確保と輸液、血糖測定とブドウ糖投与」の理論を学ぶとともに、今後予想される課題を含めた対応についての実践的な知識を検討する		
講 義 内 容	1	意識障害の鑑別(1)	
	2	意識障害の鑑別(2)	
	3	意識障害の鑑別(3)	
	4	ブドウ糖投与	
	5	血糖測定とブドウ糖投与のプロトコール	
	6	薬剤投与プロトコール	
	7	静脈路確保の実際	
	8	拡大処置の実際と今後の課題	
	到 達 度 の 把 握	授業中の口頭試問	
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	救急隊員・救急救命士としての豊富な現場経験に基づき、理論・実践的知識、さらには		
	国家試験対策に至るまでの講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	精神障害	学年	3年生
講師名	三瓶 泰子	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験		
使用機材	PC 資料		
教科 目 標	精神障害の特殊性の救急搬送時の留意点などを中心に学ぶ。		
講 義 内 容	1	精神障害・精神病の定義。	
	2	内因性・外因性精神障害。	
	3	心因性精神障害、精神症状。	
	4	救急活動、搬送の原則。	
	5	自殺企図、昏迷・混迷・興奮への対応。	
	6	病院選定と入院形式。	
	7	悪性症候群、統合失調症。	
	8	躁鬱病、心因反応、その他の精神障害。	
	到 達 度 の 把 握	講義中の口頭質問、過去問題等による確認。	
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	豊富な臨床経験をもとに、年々、増加・変化していく精神障害分野について、 理解するとともに、救急現場での対応について講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	熱傷・電撃傷	学年	3年生
講師名	池田 淳也	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験		
使用機材	PC		
教科 目 標	熱傷・電撃傷の病態生理と救急処置法を中心に学ぶ。		
講 義 内 容	1	皮膚組織の構造。	
	2	熱傷の種類。	
	3	重症度分類、簡易識別法。	
	4	熱傷面積の算定。	
	5	気道熱傷と一酸化炭素中毒。	
	6	救急処置、冷却、その他。	
	7	電撃、アーク放電、火焰、雷撃。	
	8	搬送時の留意点。まとめ。	
	到 達 度 の 把 握	講義中の口頭質問、過去問題等による確認。	
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	救急隊員・救急救命士としての豊富な現場経験をもとに、熱傷・電撃傷についての知識・現場対応・医療機関での治療について講義を展開する。		

